

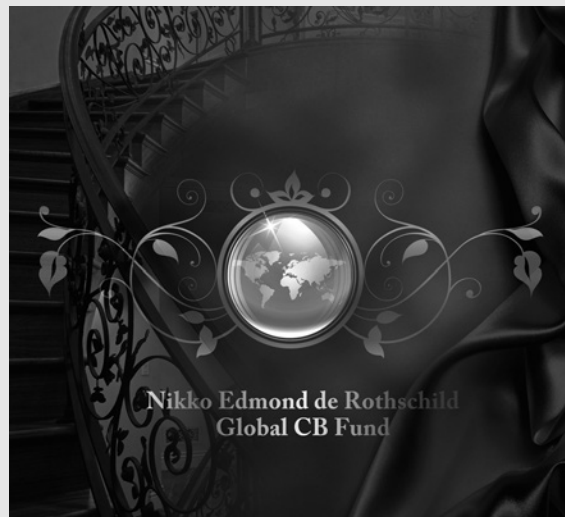
日興エドモン・ドゥ・ ロスチャイルド・ グローバルCBファンド (為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／債券

日経新聞掲載名：日興グCB無

2022年10月27日から2023年10月26日まで

第 8 期 決算日：2023年10月26日



Nikko Edmond de Rothschild
Global CB Fund

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として、世界の企業が発行する転換社債等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	11,481円
純資産総額(期末)	1,011百万円
騰落率(当期)	+3.1%
分配金合計(当期)	110円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

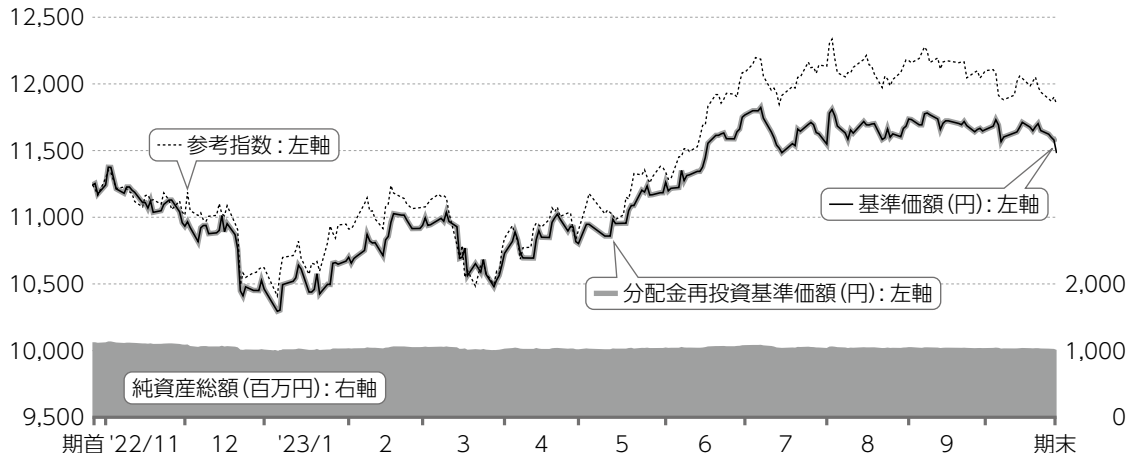
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

[閲覧方法] <https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/> にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	11,242円
期末	11,481円 (既払分配金110円(税引前))
騰落率	+3.1% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指数は、リフィニティブ・グローバル・フォーカスC Bインデックス(円換算ベース)です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界の企業が発行するC B(転換社債)に投資しました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いませんでした。

上昇要因

- 対米ドル、対ユーロで円安となったこと
- 株式市場、債券市場が軟調に推移する中、C B市場の価格の下方硬直性が投資家に好まれてC B市場が上昇したこと

1万口当たりの費用明細(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	123円	1.100%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は11,175円です。
(投信会社)	(33)	(0.297)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(86)	(0.770)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(4)	(0.033)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.006	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(-)	(-)	
(監査費用)	(1)	(0.005)	
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	124	1.106	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

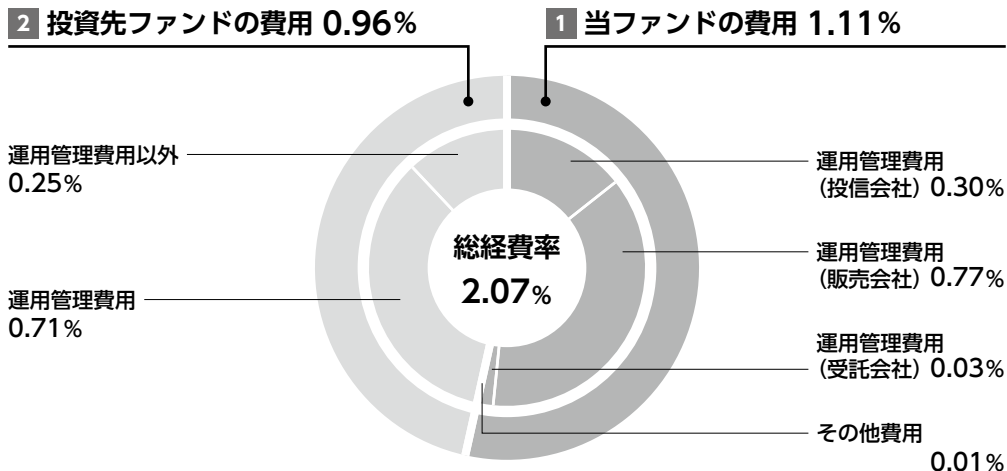
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)	2.07%
1 当ファンドの費用の比率	1.11%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.71%
投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.25%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算した経費率です。そのため、実際に投資しているシェアクラスの経費率とは大きく異なる場合があります。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

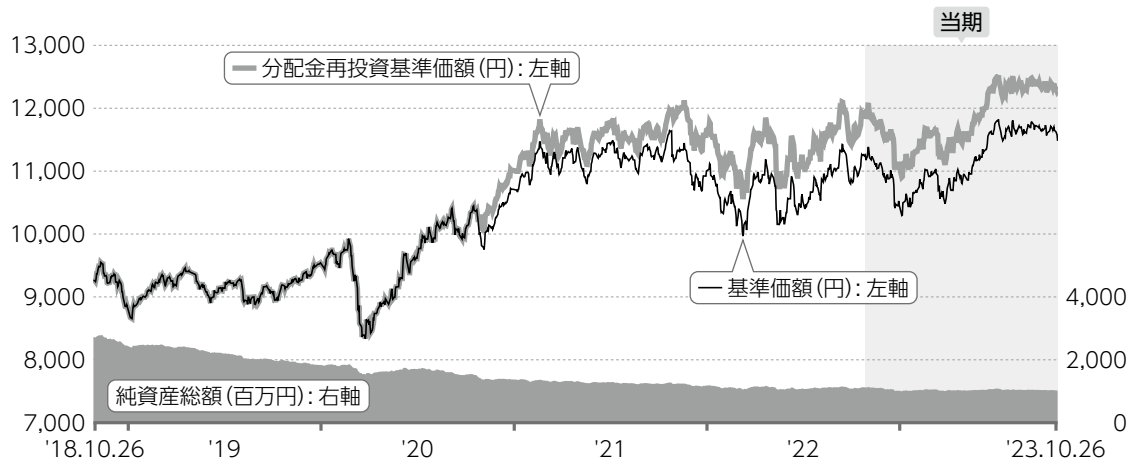
※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.07%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年10月26日から2023年10月26日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年10月26日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018.10.26 決算日	2019.10.28 決算日	2020.10.26 決算日	2021.10.26 決算日	2022.10.26 決算日	2023.10.26 決算日
基準価額 (円)	9,263	9,157	9,986	11,225	11,242	11,481
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	280	340	0	110
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-1.1	12.1	15.8	0.2	3.1
参考指数騰落率 (%)	—	2.9	16.0	18.5	-3.9	5.4
純資産総額 (百万円)	2,720	1,967	1,420	1,227	1,125	1,011

参考指数について

※外国の指数は基準価額への反映を考慮した日付の値を使用しています。

※参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

投資環境について(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

C B市場は、期を通じてみれば上昇しました。また、為替は期を通じてみれば、米ドル高・円安、ユーロ高・円安となりました。

C B市場

株式市場が軟調に推移して投資家がリスク回避的となる中で、プラスの利回りを確保しやすいC Bの投資特性が好まれて、相対的にはC B市場は堅調な推移となりました。また景気後退懸念が浮上した際には、株式市場と比較して、価格下落リスクが限定的となる点がプラス材料として働きました。

C Bの新規発行市場については、高いクーポン付与や割安な発行条件などが投資家に歓迎されてすべての地域で活発化しま

したが、特に米国での発行量が増加しました。市場全体では様々な業種と地域で、発行体の分散化が維持されています。

為替市場

期を通じてみれば、米ドル高・円安、ユーロ高・円安となりました。

米ドル・円相場は、米国の政策金利の引き上げや底堅く推移した米景気を背景に米ドル高・円安となりました。ユーロ・円相場は、日欧での金利格差の拡大を受けてユーロ高・円安となりました。

ポートフォリオについて(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

当ファンド

「グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)」および「マネー・マーケット・マザーファンド」に投資し、期を通じて「グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)」を高位に組み入れました。

グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)

●C B市場

ポジション構築には、ディフェンシブ(景気変動の影響を受けにくい)かつ慎重な投資姿勢で臨みました。具体的には株式時価総額が大きく質の高い発行体から、流動性が高いC Bを選好しました。業種的には、イ

インフレ圧力に対して相対的に強いヘルスケア、情報技術を選好しました。地域的には、世界のCB市場で一番重要であり、流動性も優れている米国を多めとしました。期末時点でのポートフォリオについては、デュレーション(投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度)は短め、市場連動性も低めとして慎重なポジションをとっています。

●為替市場

期を通してみれば、米ドル高・円安、

ユーロ高・円安となったことから、為替変動の影響は基準価額にプラスになりました。

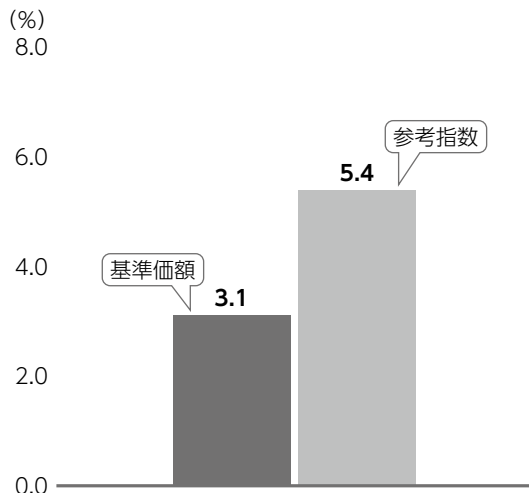
欧米で高いインフレ率を背景に政策金利が引き上げられる一方で、相対的に低金利が維持された日本と欧米との金利格差が広がり、円は売られやすい展開になりました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、流動性の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてリフィニティブ・グローバル・フォーカスCBインデックス(円換算ベース)を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について(2022年10月27日から2023年10月26日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第8期
当期分配金	110
(対基準価額比率)	(0.95%)
当期の収益	110
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	1,503

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)」を高位に組み入れて運用を行います。

グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)

●C B市場

マクロ経済環境は不透明で、市場は振れやすい状況です。加えて地政学リスクも市場センチメント(投資家心理)に悪影響を及ぼしそうです。企業収益に関しては、低成長見通しから特に欧州や中国へのエクスポージャーのある大企業では下方修正が入

りやすいとみています。地域的にはソフトランディング(軟着陸)期待から相対的に安心感のある米国を選好する方針です。ポートフォリオ構築では、C Bの株式的な性格よりも債券的な性格を重視し、先進国の信用力が高い銘柄で、プラス利回りを獲得できるような投資先を増やしていく方針です。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、流動性の確保を目指した運用を行います。

3 お知らせ

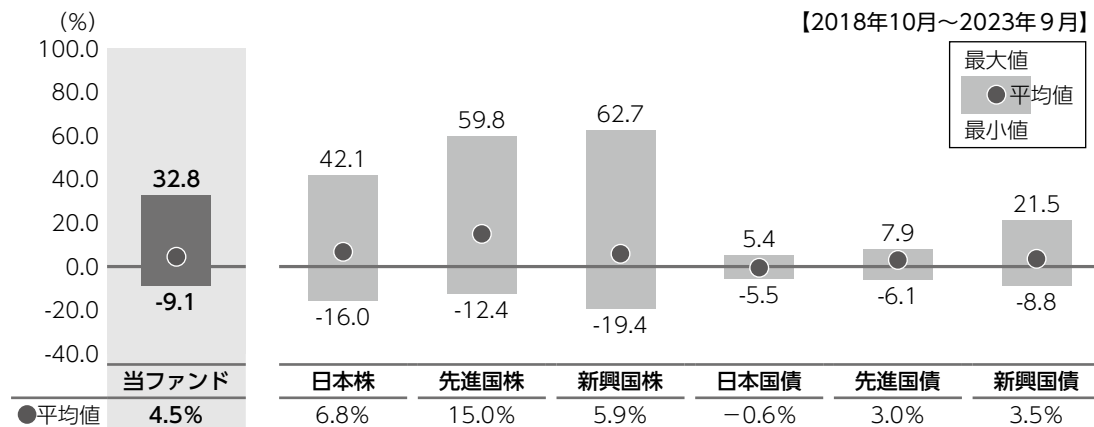
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2015年10月30日から2025年10月27日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として、世界の企業が発行する転換社債等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス) 世界の企業が発行する転換社債 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■主として、世界の企業が発行する転換社債(以下、「C B」ということがあります。)等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ■投資対象とする外国投資信託証券の実質的な運用は、C Bの運用に強みを持つエドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント(フランス)が行います。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年10月26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI (国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

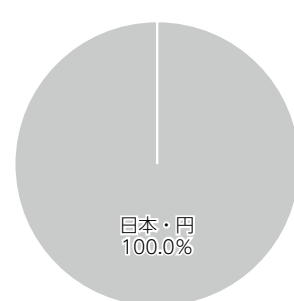
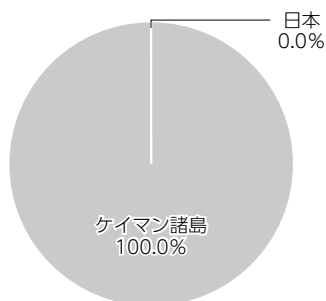
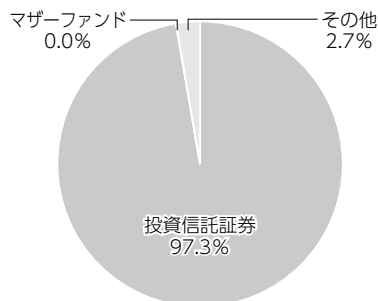
当ファンドの組入資産の内容(2023年10月26日)

組入れファンド等

銘柄名	組入比率
グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)	97.3%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%
コールローン等、その他	2.7%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目		第8期末 2023年10月26日
純資産総額	(円)	1,011,016,596
受益権総口数	(口)	880,602,229
1万口当たり基準価額	(円)	11,481

※当期における、追加設定元本額は544,756円、解約元本額は121,062,461円です。

組入上位ファンドの概要

グローバルC Bファンド(円ヘッジなしクラス)(2022年3月1日~2023年2月28日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「グローバルC Bファンド」の情報で、エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント(フランス)から提供されたデータに基づき作成しています。

基準価額(円建て)の推移



※分配金再投資ベース

組入上位銘柄

(基準日：2023年2月28日)

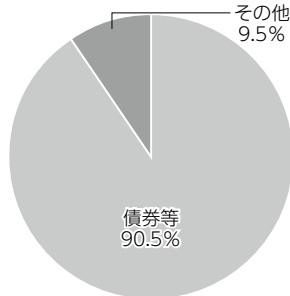
	銘柄	国・地域	利率	償還日	組入比率
1	FORD MOTOR CO	アメリカ	0.000%	2026/3/15	3.1%
2	WORLDLINE SA/FRANCE	フランス	0.000%	2025/7/30	2.8%
3	PUMA SE	フランス	0.000%	2025/6/25	2.3%
4	AIRBNB INC	アメリカ	0.000%	2026/3/15	2.3%
5	SPLUNK INC	アメリカ	0.500%	2023/9/15	2.2%
6	SOUTHWEST AIRLINES CO	アメリカ	1.250%	2025/5/1	1.9%
7	MITSUBISHI CHEMICAL HOLDINGS CORP	日本	0.000%	2024/3/29	1.7%
8	LANTHEUS HOLDINGS INC	アメリカ	2.625%	2027/12/15	1.7%
9	MERCK & CO INC	アメリカ	0.600%	2027/5/25	1.6%
10	DEXCOM INC	アメリカ	0.250%	2025/11/15	1.6%
	全銘柄数			89銘柄	

※比率は純資産総額に対する割合

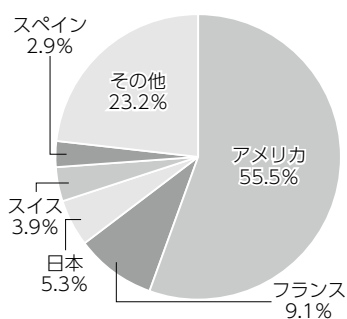
※銘柄名、国・地域は転換対象とする株式等の情報に基づいて記載しています。

※全銘柄の情報については、運用報告書(全体版)に記載しています。

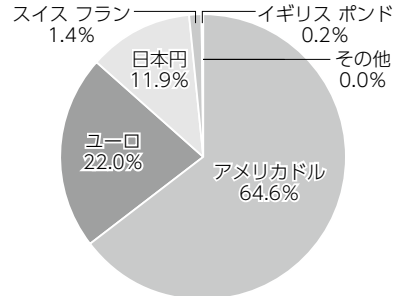
資産別配分(純資産総額比)



国別配分(純資産総額比)



通貨別配分(純資産総額比)



※国別配分は原則発行国もしくは投資国を表示しています。

※基準日は2023年2月28日です。

1万口当たりの費用明細

※単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。